

ごあいさつ



平素より大阪信用金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の経営内容をご理解いただくために、ディスクロージャー「DAISHIN DISCLOSURE 2024 ～だいしんの現況～」を作成いたしました。

経営方針や業績、地域貢献活動などを分かりやすくご案内していますので、どうぞご覧ください。

2023年度の日本では、約3年にわたる新型コロナウイルス感染症による影響が収束に向かい、ようやく経済の動きにも薄明かりが見え始めました。5類感染症へ移行された後、大阪ではインバウンド需要が戻るなど徐々に回復軌道に乗り、経済の復活に大きな期待が寄せられました。

しかし、世界情勢の混乱は終息の目途が立たず、物価、エネルギー価格の上昇に加え、急速な円安の進行が仕入価格の高騰に拍車をかけ、販売価格への転嫁に苦しむ中小企業の大きな足枷となりました。また、経済活動が正常化に向かう中「人手不足」は深刻化し、従業員の確保や流出を防ぐため賃上げに取り組みざるを得ず、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい情勢が続いています。

このような中、当金庫はこれからの経済の回復に向け海外を見据えた取り組みや、大きな経営課題の一つである「脱炭素」に向けた取り組み、また、若い力による創業を積極的に支援しました。

海外の人材雇用支援の一環として、「ベトナム高度人材採用の旅2023」を開催し、お客さまと一緒にベトナムを訪問してお取引先の外国人雇用を積極的に支援しました。

また、在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所との共催で「オーストラリア・ニュージーランド試食商談会」を開催するなど、海外とのビジネスチャンス発掘に積極的に取り組んでいます。

昨今、大きな経営課題である「脱炭素」への取り組みをサポートするため、近畿経済産業局や大阪府のご協力のもとセミナーを開催し、脱炭素への意識向上に向けた普及活動と事業者支援も行っています。

さらに学生の創業支援にも取り組み、「第2回学生ビジネスコンテスト“O-BUCs”」を開催し、学生の柔軟な発想による創業を積極的に支援しました。

また、1年後に迫った「大阪・関西万博」には、大阪商工会議所と共同でリボンチャレンジ事業に取り組み、「大阪ヘルスパビリオン」への出展企業も決定しました。大阪の町工場のオンリーワン技術を世界に発信し、微力ながら万博の盛り上げに貢献したいと考えています。

2023年度の業績は、期末の預金残高が2兆5,484億円、貸出金残高が1兆5,794億円となり、業務純益は80億円、当期純利益は85億円、自己資本比率は13.26%となりました。

これもひとえにみなさまの長年にわたるご愛顧・ご支援の賜物と深く感謝しております。

当金庫が行動指針に掲げる「自主創造」による取り組みは、地域特有の課題に寄り添って営業店が様々な活動を展開しており、今後も継続してまいります。

これからも地域金融機関として「地域に感動をもたらす信用金庫」を目指してまいりますので、今後ともご支援、ご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

2024年7月

理事長 高井 嘉津義